

## 「国立天文台の発足にあたっての声明」について

池 内 了\*・小 杉 健 郎\*\*

7月1日をもって国立天文台が発足しました。

ふり返ってみますと、東京天文台教授会において「天文学の国立大学共同利用機関の設立について」(構想素案、昭和62年3月)が出される以前より、改組に対する賛否両論を含んださまざまな議論がありました。また、改組準備調査室の共同利用WGが実施したアンケートの結果からも、改組の大方針への大きな期待感とともに、モノポリーへの不安・大学からの分離による管理・運営への自治権の喪失への不安などが広く存在していることがわかりました。国立天文台が、全国の天文学および関連分野の研究者に開かれた研究所、学問の自由を擁護する研究所として天文学の発展に資していけるかどうかは、とりわけ改組の進行に直接立ち会ってきた私達

国立天文台関係者の決意と今後の努力にかかっていると考えています。私達は、改組の基本精神を思い起こし、内外より寄せられた批判に謙虚に耳を傾けて、今後の国立天文台の歩みへの基本原則について私達の決意を表明しておくことが必要であると考えました。

こうした考えにたって、以下のような声明を23名の有志の呼びかけ人で用意し、国立天文台の職員及び同時に発足する東京大学理学部施設の職員合計156名(7月1日現在)から賛同の署名が得られました。(さらに、署名者はふえています。)ここに天文学に関連されている多くの方々に私達の決意を披歴すると共に、天文学の今後の発展のために共に努力することを誓いたいと思います。

### 国立天文台の発足にあたっての声明

宇宙のたゆまざる探索は、私たちの宇宙観を驚くほど豊かにし、今日の社会の根底をなす自然観を拡大し、また変革してきました。天文学は人類共有の文化の大切な一部分であり、これを育て発展させ次代に受け継いでゆくことは、天文学研究の一端に携わる私たちの責務でありましょう。観測と理論の調和のとれた発展、すなわち発見と洞察、予測と実証を通して、天文学を総合的に発展させることこそ、より豊かな宇宙観を獲得する道であると、私たちは確信しています。

しかし残念ながら日本においては、自然科学の中で天文学が果たしている役割はいまだ充分なものとはいえません。観測手段の未整備、後継者育成のための体制と条件の不十分さ、基礎科学軽視の国の科学技術政策などがその直接的要因と考えられますが、一方では私たち自身のうちに、学問研究の根底にあるべき厳しい相互批判が不足していたことも看過できません。

国立天文台の発足にあたり、私たちは、国民より付託された学問研究の場、知的財産の創造の場としての国立天文台が、その目的にふさわしいものになるよう努力を重ねたいと考えています。国立天文台は、天文学および関連する分野の研究の総合的な発展をめざす、共同利用の研究所であります。これまでに築きあげられてきた大学の自治の歴史に学びつつ、狭い意味の教授会自治の枠を越えた運営、国内外の広範な研究者の交流のもとでの運営を作りあげることが求められています。

私たちは、国立天文台の全職員の民主的協同および全国の研究者の総意によって運営される新たな研究所の創造をめざす決意です。また協力と相互批判の精神を基礎として新しい科学的財産を社会に送り出していく、活気ある研究所をつくりあげていきたいと念願しています。この目標の実現に向けて、また国立天文台で得られるであろう成果が人類の平和・幸福のためにのみ寄与することを切に願って、国立天文台発足にあたっての私たちの決意をここに公表し、国立天文台の職員としての第一歩を開始したいと思います。

#### 私たちの決意

(一) 国立天文台は、一大学では担いきれない大プロジェクトを全国研究者の協力の下に推進するとともに、自由な研究の気風を育み、多様な研究の継続と新しい研究分野の育成のための条件の整備に努めます。

(二) 研究者の狭い世界に閉じ籠もることなく、社会の声に耳を傾け研究の成果を広く国民に還元して、より豊かな宇宙観・自然観を人類共有のものとするべく努力します。

(三) 国立天文台は、全国の天文学研究者に開かれた共同利用の研究所であり、全職員の民主的協同および全国の天文学研究者の総意により運営されることを深く認識して行動します。そのためには研究上・運営上を問わず、国立天文台の内外における忌憚のない相互批判と民

\* 国立天文台 Satoru Ikeuchi

\*\* 東大理 Takeo Kosugi

主義が不可欠であり、私たちはその実現のために常に努力を重ねます。

(四) 国立天文台は、特定の企業への奉仕者であってはなりません。個々の企業との共同研究を実施する場合には、自主・民主・公開の三つの原則を完全に履行し、個々の企業の利益のみに資することのないようにします。研究環境の整備は基本的に国が果たすべき課題であり、個々の企業に依存しないようにします。

(五) 国立天文台は、一切の軍事研究に協力してはなりません。私たちは、あらゆる軍との協力・共同研究を行わず、武器の開発を直接の目標としたプロジェクトへは参加しません。

1988年7月1日 国立天文台発足の日に

学会だより

絵はがきセット「宇宙への招待」をお願いしております。(天文月報81巻9月号表紙をご覧ください)

値段は1セット定価500円ですが、会員の方へは400円でお届けしております。ご希望の方は下記送料を加えた金額を郵便振替で

(東京 6-13595) 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台 内

日本天文学会

へお申込み下さい。この際、通信欄に絵はがき代金であることを明記して下さい。

尚、電話による申込みは受けつけておりません。

	1セット	70円
	2 "	170 "
送料	3~5 "	240 "
	6~9 "	350 "
	10~ "	無料

賛助会員名簿

(1988年10月5日現在の国会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社  
朝日新聞社科学部  
アストロ光学工業株式会社  
(株)アムテックス  
岩波書店  
宇宙開発事業団  
大阪市立電気科学館  
沖電気工業株式会社  
第2営業本部  
カールツァイス株式会社  
河出書房新社  
(株)教育社 Newton 編集室  
国際文献印刷社  
コダック・ナガセ(株)  
啓文堂松本印刷  
恒星社厚生閣  
五藤光学研究所  
五藤光貿易株式会社  
金光教本部  
(株)三  
スライデックス(株)  
サンシャインプラネタリウム  
誠文堂新光社  
(株)立風書房  
地人書館  
天文博物館  
五島プラネタリウム  
東京学術印刷株式会社  
東京電力株式会社  
(株)東芝

松本徹  
森 暁雄  
岩川毅  
佐藤邦男  
緑川享男  
山内正男  
北澤淳  
佐藤敦之  
ハインツ・シュミット  
清水勝  
笠井康弘  
澤田卓也  
松本喬  
佐竹久男  
五藤隆一郎  
飛田利一郎  
光鑑太郎  
恒川稔朗  
尾関二郎  
佐々木永祐  
小川茂男  
下野博夫  
中田威夫  
五島昇二  
船越昭四  
平岩外一  
青井舒一

東北電力株式会社  
名古屋放送株式会社制作部  
ナルミ商会  
(株)西村製作所  
日本光学工業株式会社  
日本コントロール  
システム株式会社  
(社)日本測量協会  
日本通信機株式会社  
日本特殊光社  
(株)ニホン・ミック東京本社  
日本ユニシス株式会社  
中部支社  
日本洋書販売配給株式会社  
(株)ニュートリノ  
ネイチャー・ジャパン(株)  
浜松ホトニクス株式会社  
ファコム・ハイタック(株)  
ファコム本部文教営業部  
富士通株式会社  
システム統轄部  
丸善株式会社  
三鷹光器株式会社  
三菱電機株式会社  
宇宙衛星通信部  
ミノルタカメラ株式会社  
森田清  
雄山閣出版株式会社  
(株)渡辺教具製作所

玉川敏雄  
乗松要作  
村上俊男  
西村晃一  
福岡成忠  
下光郎  
坪川家恒  
中山田坂猛  
中田坂一雄  
萩村一美  
黒木建雄  
渡辺正義  
山本憲朗  
David D. Swinbanks  
畫馬輝夫  
村林正昭  
小坂義裕  
海老原熊雄  
中村義一  
望月孝則  
田嶋英雄  
長坂一雄  
渡辺哲郎